

救急救命学科海外実習報告

—2024 年 3 月実施 救急処置実習 D—

智原 栄一*, 村上 龍, 原 貴大

明治国際医療大学保健医療学部救急救命学科

要 旨 新型コロナウイルス感染症流行（以下、コロナ禍）の為、2019 年以来中断していた救急救命学科 3 年生対象の海外実習（救急処置実習 D）をおよそ 4 年半ぶりの 2024 年 3 月にオーストラリア・ヴィクトリア州メルボルン Monash 大学 Peninsula キャンパス, Clayton キャンパス, Notting Hill キャンパス において実施した. 参加学生 7 名, 引率教員 3 名による海外実習の概要を準備の経緯を含めて報告する.

Key words 救急救命学科, 海外実習, メルボルン, Monash 大学

I. はじめに（海外実習再開までの経緯）

コロナ禍以前の 2019 年 8 月に米国ロスアンゼルス市で実施した海外実習は、救急救命学科開設時より関わり合いがあった国士舘大学スポーツ医科学科の海外研修プログラムに便乗する形で実施したものであった. その後は全世界的なコロナ禍によって、本学で開講される多くの実習プログラムと同様に海外実習の実施も不可能となり 3 年間が経過した. このため 2023 年度は、海外実習立案実施の経験や資料がほとんど無い中で本実習の再開を図ることとなった. 幸い本学科の原講師が病院前救急の学術団体である Asian Association for EMS や救急救命士養成施設の連盟である JESA の国際交流委員会の委員長を務めていた関係で、いくつかの海外の救急救命士教育機関の担当者と面識があり、先方の規模や立地を考えシンガポールとオーストラリアに学生見学実習の受け入れの可否についてメールにて打診を行った. それぞれの国は教育システムが異なり、教育カレン

ダーも異なっている. 当方も学外実習・定期試験など学生・教員の負担が大きい行事との調整を考える必要がある. 本実習はカリキュラム上 3 年前期配当であったが、前期中は準備期間の問題もあり実施困難と判断し今回は 2024 年 3 月の卒業式終了後の春休み期間を利用してオーストラリア・メルボルン市の Monash 大学において海外実習を実施することに決定した. (2023 年 10 月). 日程決定後、大学事務を通して旅行社に宿泊と航空機の手配を依頼し、見積金額に基づき学生に実習参加を呼び掛けた. 実施日時が学年末であることから、応募条件には留年などの問題がある者は実質参加不能である以外の学力的ハードルは設けなかった. 受け入れ先のキャパシティなどから実施規模は参加学生 8 名から 15 名程度・引率教員 2-3 名を想定し準備を開始した. 2023 年 11 月中旬の時点で参加意志を前金支払いの形で表明した学生が 7 名となり本実習の開講が決定した.

II. 渡航の準備

以前であれば旅行業者を介してパスポート以外の手続きはほとんど個人で行わなくても良い場合が多

*連絡先：〒629-0392 京都府南丹市日吉町
明治国際医療大学 保健医療学部救急救命学科
E-mail: e_chihara@meiji-u.ac.jp

くあったように思われたが、現在はインターネットとスマートフォンの普及により渡航ビザ申請など多くのことを個人で Web にて行う必要がある。参加学生の渡航経験は様々であったが、家族旅行など本人が手続きをしている経験はほとんど無いので、学生の渡航関連 Web 申請には支援が必要であった。今回

はオーストラリアへの短期渡航のため審査がある電子 VISA (AustralianETA) の Web 申請が必要であり、海外決済できるクレジットカードも準備の上、事前指導として教員立会いの下で学生本人のスマートフォンから申請を（英語にて）行った。また、短期間の参加者の英語力アップは無理であるので現地での

表 1 旅程表

日程	地 名	交通機関	時間	行 程（宿泊地）	食 事
3月16日(土)	関西国際空港			関西空港 4 F Cカウンター集合	
				チェックイン（座席決定）	
		CX-507	18:05	空路 キャセイパシフィック航空にて香港へ	機内食
	香港国際空港		21:35	乗継@香港国際空港	
3月17日(日)	香港国際空港	CX-105	00:25	乗り継ぎ便出発	機内食
	メルボルン	専用車	10:50	入国、専用車で市内視察 ※ホテルチェックインは 15:00 以降	昼・夕食：実費
3月18日(月)	メルボルン	専用車	7:15	ホテルロビー集合、出発	朝食：ピュッフェ
			9:30	Monash大学 Peninsulaキャンパス到着 Associate Professor Kelly Bowes(学科長)表敬	
			10:00	Professor Brett Williams講義 「オーストラリアの救急救命士制度」	
			11:30	Dr Cameron Gosling講義 「Monash大学の救急救命士養成」	
			12:30	昼食	キャンパス内：実費
			13:30	Dr Brendan Shannon講義 「Monash大学大学院での救命士教育」	
			14:30	Professor Brett Williams/Carlos Garcia キャンパスツアー	
			16:30	Peninsulaキャンパス出発	
			17:30	ホテル到着	夕食：実費
3月19日(火)	メルボルン	専用車	8:45	ホテルロビー集合、出発	朝食：ピュッフェ
			9:30	Professor Brett Williams Notting Hillキャンパスツアー	
			10:45	出発	
			11:30	Fire Rescue Victoria Emergency Medicine Responder 訪問	
			12:30	昼食・移動	昼食：実費
			13:00	Air Ambulance MICA Flight Paramedic訪問	
			14:00	Essendon Ambulance Branch訪問	
			15:00	South Melbourne Training Branch訪問	
			16:15	現地出発	
			17:15	ホテル到着	夕食：実費
3月20日(水)	メルボルン	各自	午前中	チェックアウト後、市内視察	朝：○
		専用車	午後	専用車にて空港へ	
	タラマリン空港	CX-104	15:35	空路 キャセイパシフィック航空にて	機内食
	香港国際空港		21:45	香港到着、乗り継ぎ	
	香港国際空港	CX-566	01:50	乗継便出発	機内食
3月21日(木)	関西空港		06:20	到着、入国手続き後解散	

サバイバル手段として海外での日本人旅行者としての治安感覚の常識を伝えると共に、スマートフォンのグーグル翻訳等の活用方法を事前学習させた。

Ⅲ. 旅程表(表1)

当初の旅程は表1の通りであるが、今回事前に研修内容について打ち合わせをしていた Dr. Brett が体調を崩され約1か月程度の休養に入ることが3月になってから判明し、Monash 大学救急学科担当者である Kelly 先生に引き継ぎがされ、予定通り研修を実施することになった。(このため実際の現地での予定はこの旅程表からいくつかの点で異なることとな

った。)

<現地活動の実際>

参加学生7名(浅沼敏輝, 池上雅春, 池上大和, 小高玄大, 中村哲, 野田昂汰, 松尾勇輝)に対し、引率教員は 救急救命学科 原貴大講師, 村上龍助教 2名に加え Monash 大学救急救命学科への初めての学科としての訪問であることを考慮して学部長の智原栄一が同行した。このうち原, 村上は離日から帰国までの全行程を学生と共にし、智原は別用でメルボルン市滞在中であったので3月17日の学生到着時メルボルン空港で合流し、3月20日まで活動を共に行った。実際の行程は以下の通りであった。

2024年3月16日(土)

時刻	行程
15時00分	関西国際空港キャセイパシフィック航空カウンター前にて学生集合。村上・原教員と合流する。全員集合を確認し Teams にて学内教員宛に報告。
15時00分～ 17時45分	学生点呼終了後、全員で受託手荷物預け入れ手続き、チェックインを済ませた後、出国手続きレーンに進む(当日はレーンが混雑していたため1時間程度の列上待ち時間が発生した。)。持ち込み手荷物検査等が完了し、制限エリア内に入場後は搭乗ゲート番号を確認した後一旦解散、航空機搭乗開始15分前に搭乗ゲート前に再度集合とした。
17時45分～21 時50分	搭乗ゲート前にて全員集合、点呼を済ませる。搭乗後は各自の座席に分かれるため、トランジット先の香港空港到着時まで個別行動となる
21時50分～翌0 時25分	香港空港到着となる。通信手段については空港フリーWi-Fiがつながるため、各員でスマートフォンの設定を行い、空港内通信手段とした。降機後はトランスファー専用手荷物検査レーンのある空港棟まで空港内トラムに乗車(無料)した。その後、トランスファー用手荷物検査レーンを通過した。
0時25分	香港発メルボルン行き航空機搭乗ゲート前にて集合、点呼を終えた後各自で航空機搭乗

2024年3月17日(日)

11時32分～ 12時32分	メルボルン空港到着(写真1) 入国審査、荷物受け取りの後、現地ツアーガイドと合流して市内視察へ
13時01分	カールトン庭園に到着するも、翌日からのイベント設営のため中には入れなかった。
13時22分～13 時37分	セントパトリック大聖堂(写真1)に到着するも、日曜日でミサが行われており、外から写真撮影をするに留まった。観光会社手配のツアーはこれ以上予定がなされていなかったため、急遽クイーンズマーケットでの観光を手配頂いた。
13時50分～15 時44分	クイーンズマーケット到着(写真1)。ガイドによる説明の後、自由行動とした。学生達は食事やお土産の購入をした。
15時53分	Batman's Hill on Collins ホテルに到着。

17 時 00 分～20 時 03 分	日用品やお土産の購入については Southern cross station 内のスーパーマーケットで済ませ、夕食はホテル近くのステーキハウスへ向かった。夕食後は、近隣を学生と共に散策し、20 時にホテルに戻り、プログラム終了とした。
---------------------	---

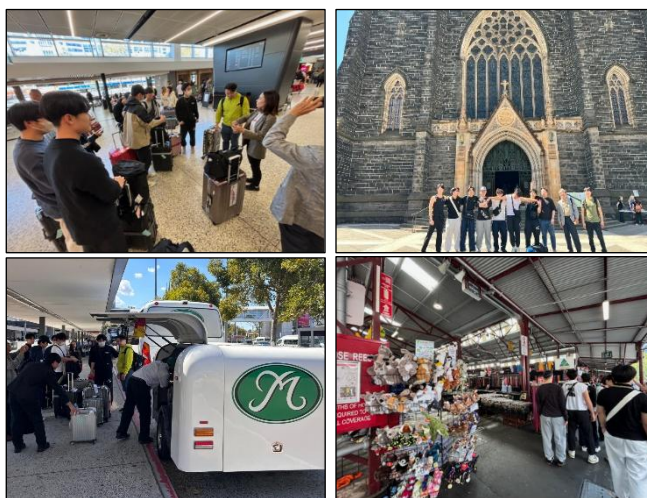


写真 1 メルボルン 1 日目
空港到着ゲートにて現地ガイドと合流後、現地市内視察を実施した。(3 月 17 日)

2024 年 3 月 18 日 (月)

7 時 45 分	朝食 (ホテルバイキング) を済ませた状態で、ホテルロビーに集合。JTB 手配のマイクロバスにて Monash 大学の Peninsula キャンパスへ移動
8 時 50 分	キャンパスに到着 (写真 2)。 インストラクターの待機室にて本日の流れを確認。
9 時 30 分 ～12 時 00 分	3 つの部屋で ALS の Skill training が行われていたため、学生を 3 グループに分けて参加。学生達は CPA 傷病者に接触し、最初の 1 ペリオドで I-gel 挿入。除細動適応波形を確認して除細動を行うまでの流れを訓練した。学生達は Google 翻訳などを用いながら、想起される心停止の原因に関するクイズや心停止活動の違いについてディスカッションを行った。
12 時 00 分～14 時 00 分	先方手配の元、昼食を摂った。 その後、学科長の Kelly 先生から Monash 大学救急救命学科での学部や大学院での教育内容について説明を受けた。学生達は Monash 大学の教育レベルや入学基準、救急救命士の職場環境などについて質問をした。
14 時 00 分～15 時 00 分	Kelly 先生の先導で救急救命学科棟施設を見学した。 家屋内を想定したシミュレーション室及び室内を撮影するカメラと、その模様を確認するフィードバック室などが設置されていた。また屋外には実習用の救急車が 3 台あり、本学学生は同救急車の電動ストレッチャー操作を体験した (写真 3)。
15 時 00 分～15 時 30 分	家屋内を再現したシミュレーション室で、半期に一度行われるシミュレーション訓練を見学した。シミュレーションは強盗に遭い、本棚の下敷きになった男性と腹部をナイフで刺された女性の複数傷病者で、救急隊 2 隊で合計 4 名体制での想定訓練が行われていた。本学学生は、その模様を見学すると共に、シミュレーション終盤ではマンパワー要員として複数の学生が全身固定や搬送支援などの形でシミュレーションに参加した (写真 3)。

15 時 30 分～ 16 時 15 分	Kelly 先生の先導で Peninsula キャンパスを見学した。Peninsula キャンパスは教育学部や経済学部、理工学部などが設置されていた。また、アボリジニを祖先に持つ学生への対応など多様性に配慮した運営体制を学んだ。
16 時 36 分～ 16 時 47 分	旅程にビーチへの訪問が無かったために、JTB 手配で Peninsula キャンパス直近の Quest Frankston ビーチへ立ち寄り、記念撮影のみ行った。その後バスでホテルへ移動した。
17 時 36 分	ホテルに到着。 学生達は当日の実習中に実習中に知り合った Monash 大学生と夕食の約束をしていたため、夕食については自由行動とした。
21 時 15 分	ホテルロビーにて学生達の点呼を行い、プログラムを終了した。



写真 2

Monash 大学 Peninsula キャンパスにて現地学生とディスカッション、合同実習を実施した。(3月18日)

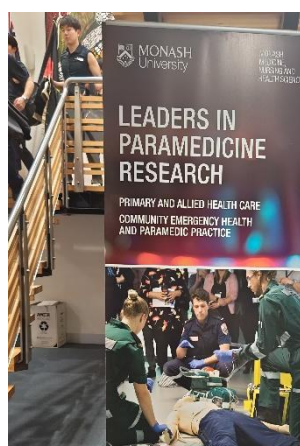


写真 3

2024 年 3 月 19 日 (火)

8 時 45 分	朝食（ホテルバイキング）を済ませた状態で、ホテルロビーに集合。JTB 手配のマイクロバスにて Monash 大学の Notting Hill キャンパスへ移動
9 時 23 分～ 9 時 50 分	Notting Hill キャンパスに到着。 Kelly 先生により、施設紹介がなされた。同キャンパスは元々 Ambulance Victoria 指導救命士養成の修士課程プログラムのための施設だったが、コロナの影響で完全オンラインとなったために、現在では学部生教育で活用しているとのこと。 実習施設はシミュレーション室にて 360 度にプロジェクターでの映写や音声を活用することで、臨場感のあるシミュレーション訓練を行う施設となっていた(写真 4)。また Peninsula キャンパス同様にカメラがあり、講義室でその模様を確認出来る様になっていた。
10 時 00 分～ 11 時 20 分	Kelly 先生により Monash 大学で行われているコミュニケーションに関する講義と救急車同乗実習後の振り返りが本学学生を対象に行われた。Monash 大学では比較的早期に同乗実習が始まるために、実習先でのスタッフや症例に関する学生のストレスケアについて気を配っているとのことだった。 その後、歩いて Monash 大学の Clayton キャンパスへ向かった。

11 時 40 分～14 時 00 分	Kelly 先生により Clayton キャンパスツアーが行われたが、広大なキャンパスのため全体の 4 分の 1 程度を見るに留まった。昼食は同キャンパスの食堂で、各自購入した。その後 Notting Hill へ戻った。
14 時 00 分～15 時 56 分	2 年生を対象とする、「コミュニケーション」を指導するためのシミュレーション訓練を見学した。指導者は救命士とコミュニケーション学を専門とする俳優であった。傷病者役もその俳優が務め、人間の身振り手振りが意味する非言語的コミュニケーションについて教育がなされた(写真 4, 5)。本学学生は社会的ニーズの大きい頻回要請者のシナリオを見学し、現地学生が行った目線の配り方や姿勢、質問の仕方などについて自ら英語を調べて質問していた。
16 時 30 分	ホテルに到着。 教員は Ambulance Victoria のメディカルディレクターである David Anderson 氏と夕食に出かけたため、学生の夕食は自由行動とした。
21 時 15 分	ホテルロビーにて学生達の点呼を行い、プログラムを終了した。



写真 4

Monash 大学 Notting Hill キャンパスにて 360° パノラマ投影シミュレータの見学と現地学生との合同訓練を実施した。



写真 5

2024 年 3 月 20 日（水）

・Ambulance Victoria Dispatch Center 見学

参加者：野田, 池上(雅) 引率：原

8 時 30 分	朝食(ホテルバイキング)を済ませた状態で, ホテルロビーに集合. 荷物はホテルクロークに預けた. Ambulance Victoria の David Anderson 氏の私用車にて Triple Zero Victoria に向かった.
9 時 18 分～ 10 時 45 分	通信指令室である Triple Zero Victoria に到着, エントランスで入館証が発行され入室した. 指令室内での写真撮影は守秘義務の観点から不可能であった. 緊急通報はまず Call taker によって応需され, 警察・消防・救急のいずれかの要請かを判断された後にそれぞれの Dispatcher に振り分けられる. Ambulance Victoria には常時 4 名の Dispatcher が勤務しており, それを 2 名の Paramedic が管理していた. また, 現場救急隊の動態管理のために Paramedic が更に 3 名, MICA が 2 名配備されていた. 心肺停止症例や災害時にどのように通信指令室が Ambulance Victoria のリソースを活用しているのかについて説明を受けた. その後 David Anderson 氏の私用車にてホテルに戻った.
11 時 30 分～	ホテルに到着し, 近隣のレストランで昼食を摂った. 帰国準備・着替えを済ませ, 博物館組と合流した.

・Melbourne Museum 見学

参加者：浅沼, 小高, 中村, 松尾, 池上(和) 引率：村上

8 時 55 分	朝食(ホテルバイキング)を済ませた状態で, ホテルロビーに集合. 荷物はホテルクロークに預けた. Spencer st. 駅からトラムに乗り, Spring st. 駅で下車, その後はミュージアムまで徒歩で移動(約 10 分)した.
9 時 34 分～ 10 時 55 分	ミュージアムに到着. 学生分は無料でチケットを発行された. メルボルンミュージアムでは学生であることが確認できれば学生の入館料は無料となるとのことである. (本学学生証はすべて日本語表記のため, 学生であることの確認ができない場合があるが, 今回はフロントスタッフが偶然に日本人であったため確認作業がスムーズに行えた). 見学に際して智原から学生宛にミュージアム内での課題が以下の様に提示された. 1, シロナガスクジラの上腕骨と尺骨, どちらのほうが長いですか? 証拠写真も撮りなさい. 2, ティラノサウルスのような肉食恐竜の首には肋骨に対応する頸肋がありますか? 写真で示しなさい. 3, ビクトリア州の先住民族は違う言葉話すいくつかの部族でしたが, もともと幾つくらいの部族がいましたか? A, 5 くらい, B, 15 くらい, C, 40 くらい 4, 展示されているアポロ宇宙船は何人乗りですか? ミュージアムの広さについては上野の科学博物館の 1/3 程度で, 急いで全ブース回ったとしても展示物に対する課題を数題付与していれば 1 時間半程度を要する広さがある. 10:40 頃に全見学と課題が終了し, ミュージアムショップを 10 分程度散策後, トラムに乗り, Spring st. 駅に徒歩で向かう.
11 時 00 分	Spring st. 駅からトラムに乗り, Spencer st. 駅で下車, ホテル近くのスーパーマーケットで昼食等を購入してホテルに戻った.

2024 年 3 月 20 日～21 日（木）

13 時 20 分～	ホテル前からメルボルン空港行きバスに乗車, 空港に向けて移動開始.
14 時 20 分～ 15 時 50 分	メルボルン空港に到着後, チェックインカウンターで受託手荷物等の預け入れを行う. その後出国手続きゲートを通し, 制限エリア内に入場. メルボルン発香港行き航空機に乗る.
21 時 45 分～翌 1 時 50 分	香港空港到着となる. 搭乗 15 分前に香港発メルボルン行き航空機搭乗ゲート前にて集合, 点呼を終えた後各自で航空機搭乗となる.
翌 6 時 30 分	関西国際空港到着となる. 入国手続と税関申告を済ませ, 帰国ゲート通過後最終点呼, 解散となる.

3 月のオーストラリアは夏の終わりであったが行程中は天候に恵まれ気温も 25 度以上で乾燥していたということはあったが快適に過ごすことができた. 参加者（学生・引率教員）共に健康上のトラブルもなく無事に全行程を終了した.

予定との一番の差異は現地の Ambulance Victoria などの現地救急機関との調整申し送りが（当初の先方担当者の体調不良等による交代などの事情で）オーストラリア側でうまくなされていなかったもので, Monash 大学内のプログラム以外は第 4 日の午前中に Dispatch Center の見学を組み入れる以外は実施できなかった点である.

<帰国後の報告会>

2024 年 4 月 10 日プラスワンの時間を利用し参加学生による報告会を学科教員・学生を対象に実施した.

報告は 3 班に分けて行い, 野田班は「Monash 大学での救急救命士教育について」同大学を訪問した際の授業体験を通して感じた日本(本学)の救急救命士教育との違いに着目して報告がなされた. また, メルボルン市内見学を通じて感じた市民生活の違いについても報告を行った. 同報告では充実したシミュレーション実習を行うことが出来る器材や教員の体制が整っていることに主眼を置かれた報告がなされた.

松尾班では「オーストラリアの救急救命士制度について」本邦との違いを念頭に発表を行った. 特に現地では Intensive care Paramedic (集中治療救命士) という資格が規定されており, その養成には大学院

修士課程での学習が必要であることなど, 学位を特段必要としない日本の救急救命士制度との違いについて発表が行われた.

小高班では現地指令センター見学を通じて学んだ, 病院前救急医療体制の違いについて報告がなされた. メルボルンでは通信指令員は指令員として雇用されており, 消防組織の一部署としての運用とは全く異なっている点や, 前述した Intensive care Paramedic の運用方法などの報告がなされた.

IV. 本実習を振り返って

オーストラリアと日本とでは入試制度が大きく異なるので説明が難しいが, Monash 大学入学のための学力はビクトリア州の高校生の上位 20%程度とみなされておりかなり学力水準は高いと言える. このレベルの学生たちが英語で行っている実習への参加は英語力を勘案しても本学の学生には荷が重いのではないかとの懸念が事前にはあった. 3 月 18 日の現地のスタッフと授業前にこちらの教員がミーティングを持つことができ, その際に日本の大学教育においては国家試験を含めた専門教育は全て日本語で行われるために学生の英語力が低い点などを説明し, 医学的内容に関しては国際基準と齟齬が無いことなどを改めて確認したところ本学学生の今回の実習参加 (内容は心肺停止者への SGA (i-gel) 挿入と VF に対する除細動手技) を前向きに受け止めていただくことができた (写真 2, 3). 実習はそれぞれの 10 名程度のグループごとに実務教員がついて実施されてい

た. 本学学生も3名と4名の2つに分けてグループの中に混ぜていただいた. 当然授業は全て英語で行われ適宜学生と教員は質疑をしながら進めていくので本学学生たちは言葉の面から物怖じする風に見られたが, 時間が経つに従い実習内容が彼らにとって既習の内容であったこともあり, インストラクターの的確な誘導も得て実習者として参加することができた. 約2時間の実習が終わるころにはつたない英語ながら現地学生と意気投合するものも見られた. 実際に実習終了後の夜間自由時間に現地学生とSNSで連絡を取り合いパブでの交流を短時間ながら(教員は全く介さずに)行えたと報告を受けた(写真6). 同世代・同じ職業を目指し学習する者同士という点で言語・文化の壁はあっても現地で実際に対面交流することで知識以外の交流が生まれたことは彼らの将来の財産となると思われる.

最低限のコミュニケーションを図る上ではスマートフォンの翻訳ソフトやITを通じて入る様々な現地情報を活用することで, 以前ほど英語力が無くても英語圏において滞在ができることは事実であろう. しかし, 切迫した内容を正確にコミュニケーションするためにはある程度の英語コミュニケーション力が必要であることも否定できない. 今回の3月18日の実習内容も既習のものであり, 日本の医学教育が日本語で行われているとしても多くの英語由来のカタカナ語や英語略号が多く使われている現状もあり, ついていくことがある程度可能であったと考えられる. しかし, 3月19日のシナリオベースの実習(写真4)は内容が医学的より社会的及び心理的な問題を抱えた患者の救急要請にどのように対応するのかがテーマであったこともあり, 現地での留学経験者である原講師が各段階で詳しく翻訳と解説を入れなければ実習内容が学生には理解できないものであった. 本学での専門教育においては英語を必要とする機会を全く持っていない彼らにとってこれまで英語を勉強するモチベーションはなく, 現状の英語力にとど

まっていることを非難はできないと感じられる. 明治以来の日本の発展が先人たちの基礎分野から専門分野までの徹底した翻訳努力に裏付けされていることは否定できないが, 本来国際的である専門分野までが日本語化していることで, 日本だけがガラパゴス化する危険性も秘めている. オーストラリアはもともと大英連邦の一つであるから言語文化を共有するのは当然であるが, オーストラリアの救急救命士はイギリスやカナダですぐに職を見つけ得るし, 逆に英国の救急救命士チームが研修のために同時期にMonash大学を訪問していた. Monash大学の教育プログラムはシンガポールやマレーシアなど高等教育が英語のできるアジア諸国へすでに展開され始めている. 今後の日本社会がグローバル化していく中で専門知識も共有化するためには, たとえば医学教育のような世界共通のベースを持つ専門分野の教育は英語を基本に据える方向に舵を切りなおすことも必要であるかもしれない.

謝辞: 今回の海外実習の実施に仲介の労をお取りいただいた Monash 大学 Brett 教授と現地での学生実習を差配いただいた救命学科長の Kelly Ann Bowele 先生, その他 Monash 大学関係者一同に心から御礼申し上げます.



写真6
現地学生と本学学生との交流会での一場面. 両校学生が現地で企画し, 自発的な交流を実施した.

The report on the emergency medicine students' ex-campus program in the Paramedicine Department of Monash University in Australia.

Eiichi Chihara, Ryu Murakami, Takahiro Hara

*Faculty of Emergency Medical Science, School of Health Science and Medical Care,
Meiji University of Integrative Medicine*

Abstract

In March 2024 for the first time in 4.5 years we made an emergency medicine ex-campus program in the paramedicine department of Monash University, Melbourne which is one of internationally prominent universities in Australia. The visiting team consists of seven 3rd grade students and three faculty members in Emergency medical science department of MUIM. Our students participated in resuscitation training session with 2nd grade students of Monash University. We also visited a high performance simulation laboratory in Nottingham and experienced some role playing scenario sessions. Some participants had a chance to observe the EM dispatch control center of Ambulance Victoria. Enjoying the cultural differences between Australia and Japan, the students were impressed about how foreign paramedic students were actively learning.